

17

診断所見

両側側脳室三角部周囲白質に左右対称性の T2 強調画像高信号・T1 強調画像低信号領域が認められている。造影にて病変の中心部に造影効果が認められている。臨床情報として家族歴はなく、視力障害で発症している。

病変の存在部位、middle zone の造影効果及び症状から ALD の所見である。

解答 e

18

診断所見

左眼球内に T1 強調画像高信号、T2 強調画像低信号の腫瘤が認められている。T1 強調画像・T2 強調画像の信号は悪性黒色腫に特徴的な所見である。

解答 b

19

診断所見

舌骨下傍正中に薄い壁の嚢胞構造が認められている。スライスは舌骨下レベルで舌骨下懸吊筋の深部に病変が認められている。尾側のスライスでは内部に充実成分が認められ甲状腺に近い高濃度を呈している。甲状舌管嚢胞の所見である。

解答 d

20

左耳下腺に T2 強調画像軽度高信号・脂肪抑制 T1 強調画像高信号の腫大が認められている。若年の発症で好酸球増多・高 IgE 血症を伴っている。木村病は T1 で筋肉と同程度の低信号・T2 で脂肪と同程度からやや高信号を呈するが臨床情報からは木村病が疑われる。

解答 a

21

上段スライスにて右下葉の容量減少が認められ、高分解能 CT では気腫性変化を疑わせる濃度低下領域が認められている。肺気腫などを疑うが、それ以上の所見は明らかではない。選択枝 b,c,d,e は次に行う検査として適切ではない。深吸気での CT での再検が次の検査として適切と考える。

解答 a

以上、解答 17～21 は土本 正会員（札幌医科大学附属病院）